

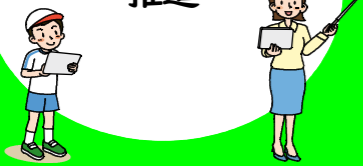
3 学習指導要領の趣旨を踏まえた資質・能力を育成するために  
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通じた資質・能力の育成



単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにします。

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、授業改善を行う

ICT活用の  
推進



指導と評価の  
一体化



自分に合った方法  
で学びを調整しな  
がら理解を深める  
「個別最適な学び」



互いに学び合う機  
会を設け、学びを  
広げ深める  
「協働的な学び」



主体的  
に充  
実

<「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた手立ての例>

資質・能力の育成

学びを人生や社会に生かそうとする  
学びに向かう力・人間性等の涵養



生きて働く  
知識・技能の習得

未知の状況にも対応で  
きる思考力・判断力・  
表現力等の育成

全ての子供に、「よりよい社会の創り手」として、これからの社会を生きる資質・能力を育む

<授業改善の視点>

主体的な学び

学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

子どもの姿（例）

- ・「こんなふうに表したい」「どうしてだろう」などの思いや疑問をもって、自己の課題を明確にしている。
- ・学習のゴールを理解して、課題解決に向けた見通しをもって活動している。
- ・これまでの学びとの関連に気付き、自分に合った方法を選択して課題解決に生かそうとしている。
- ・自己の学習への取組を振り返り、「できたこと」や「次にやること」等を自覚している。

対話的な学び

子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

子どもの姿（例）

- ・友達や教職員との対話を通して、自分の考えを明確にしたり修正したりしている。
- ・地域の人と対話することで、学習したことが自分事となっている。
- ・本や資料の記述と自分の考えを照らし合わせながら読み進めている。
- ・友達が自分と違う意見を言ったとき、「そういう見方や考え方もあるんだな」と受け止めている。

深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」（p25）を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

子どもの姿（例）

- ・「前に学んだ〇〇と同じ考え方だ」などというように、新たな学びを既習事項と関連付けて理解している。
- ・友達や教職員の意見を受けて、再考したり新たな考えを創造したりしている。
- ・学んだことを日常生活や他教科と結び付けようとしている。
- ・様々な方法や多様な立場から、解決に向かっている。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学習評価の充実

「主体的・対話的で深い学び」の実現においては、児童生徒一人一人の学びの過程や成長を捉え、次の指導に生かす学習評価を充実させることが必要です。授業の中で学習の様子を継続的に見取り、教師の指導改善や児童生徒の学習の改善につなげる「指導と評価の一体化」を図ることで、児童生徒が学習したことの意義や自己の学習状況を理解し、自分自身の目標や課題を明らかにして自ら学習を進めていくことができるようになります。

参  
考  
資  
料

- ・「各教科等の指導におけるICTの効果的な活用について」（文部科学省）
- ・「みるみる『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実のためのサポートマガジン」（国立教育政策研究所）
- ・「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（小学校編・中学校編）」（国立教育政策研究所）

